臨床検査科支部会報 ピペッツ Vol.15

1997年3月1日発行
編集委員　大倉　貢　　瀧山久美子　　宮地なぎさ
古川聡子　　綱島充英
編集発行　川崎医療短期大学同窓会(松丘会)
臨床検査科支部
〒710-01　倉敷市松島316番地
TEL　086-462-1111（内3037）
印　　刷　西日本法規出版㈱

『人．体．学．の教えと梅の木の思い出』

川崎医療短期大学　臨床検査科
助教授　小　郷　正　則

卒業生の皆様に悲しい報告をしなければなりません。川崎学園の創設者であり、川崎医療短期大学の初代学長を努められた、名誉理事長の川崎祐宣先生が6月2日午前1時16分、肺炎のため92歳にわたる生涯を閉じられました。

翌3日、午後6時より「お別れ会」が現代医学博物館講堂において学園関係者を含め、3千人余の方々の出席でしめやかに営まれました。また、先生のご遺体は自らの申し出によって献体第1号として、川崎医科大学学生の医学教育に役立てられます。

なお、学園葬は、長野士郎岡山県知事を葬儀委員長として、7月6日に親族、各界代表者、学園関係者とともに多くの卒業生の見守る中しめやかに行われました。ここに謹んで先生のご冥福をお祈りいたします。

故川崎祐宣先生は川崎学園の建学の精神として「1．人間をつくる」「2．体をつくる」「3．医学をきわめる」を打ち立てられた。即ち「人間性豊かで、健康で、深い専門的知識技能を身につける、この建学の理念を貫いて、わが学園を巣立った若き卒業生たちは、患者のため、社会のために、ひたむきの奉仕をつづけ、地域住民に信頼され、尊敬される臨床医とともに広い視野で医学を推進するコメデカルとなり、ひいては川崎学園の名声を高めてくれると思う」と言われていた。さらに、先生は常々「患者に信頼され、尊敬され、親しまれる医者たれ」。「患者があるから、医者であり、病院がある」。「病気を診る前に病人を診よ」…等が口癖でもあった。

短大の正門右側の大きな松の木とヒマラヤ杉の下にどっしりとした岩石に「人．体．学」という言葉が刻まれた石碑がおいてある。この石碑は元臨床検査科教授（現名誉教授）の仲田包著先生が退官記念で残されたものであるが、この刻まれた言葉は、我々、医療の路を志す者は忘れてはいけない言葉であり、忘れることは川崎を卒業したことを忘れることでは無いかとも思う。今、あらためて心に刻み込んでいる。

毎朝、短大の坂道で梅の木と出会う。この梅の木には特別の思いがある。入学当初に故川崎祐宣先生から「君達1期生に1本ずつあげるから大切にしなさい」と言われた木々である。毎年、この梅の木に多くの花が咲き、たわわに実がなる様を先生の言われたとおりいとしんでみている。そして、この梅の木のように卒業生達も毎年、花を咲かせ大きな実を沢山つける人生を歩んでいってもらいたいものである。

これからも「人．体．学の石碑」と「若木も多くなった学園自慢の梅の木」達が語りかけてくる意味を受け止めながら、私も母校の臨床検査技師教育に情熱を傾けていきたいと思っています。

川崎先生学園葬の様子

川崎先生の遺影

葬儀の全景

チマ夫人の献花

献　花

玄関前の受付

短大より

皆様、お元気でお過ごしですか。

梅雨も終わり、今年は水不足もないかと安心していたところ、病原性大腸菌「O-157」が岡山県を発端として、全国的に大暴れし始めました。各施設では対応に追われている所も多々あることと思います。疲労困憊の毎日とは思いますが、検査および駆除の方よろしくお願いいたします。

また、世の中では就職難が騒がれております。この短大でもその波を受け、学生の就職が困難になりつつあります。前年度は、卒業後やっと内定という学生もあり、いやでも就職難の事実を突きつけられています。受験してもその競争率の高さに驚くばかりで、複数施設を受験する学生も増えてきました。皆様の施設、ご近所で就職等の情報があれば、是非ともご一報くだされば幸いと思います。

毎年様々なことが起こる世の中ではありますが、それに揺らぐことなくしっかり自分の歩みを進めて参りましょう。少しでも前へ前へ……上に上にと……。

——— 近況報告———

1．第21期生が卒業しました。
　これで卒業生総数は1,024名（うち２名死亡）となりました。
2．第24期生（54名）が入学しました。留年生を加えて現在56名です。
　担任は下田先生です。
3．第２学年の担任は山本誠一先生、副担任は小郷先生です。
4．新専任教員紹介
　所司睦文　先生（第９期生）が新しく短大の専任となりました。北里（東）病院から来られました。臨床生理学、医用工学関係を担当される予定です。

本年度もこの紙上をお借りして、平成９年３月卒業予定の第22期生（担任：瀧山）の名簿を掲載します。もし、皆様方の近くの職場で求人がありましたら、情報をお寄せくださるようお願いします。

川崎医療短期大学臨床検査科　　第11期生　瀧山久美子

―――編集部より―――

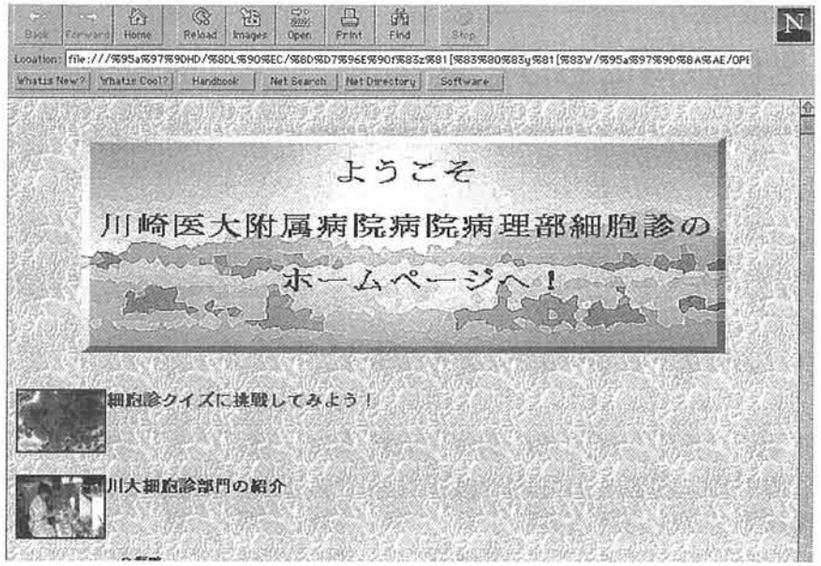
毎回のように期限より遅くなってしまい本当に申し訳ありません。原稿は集まっていたのですが、編集に力が入らず期限をあっという間に過ぎてしまいました。そろそろ脳軟化が始まっているようで……　―Ｍ・Ｏ―

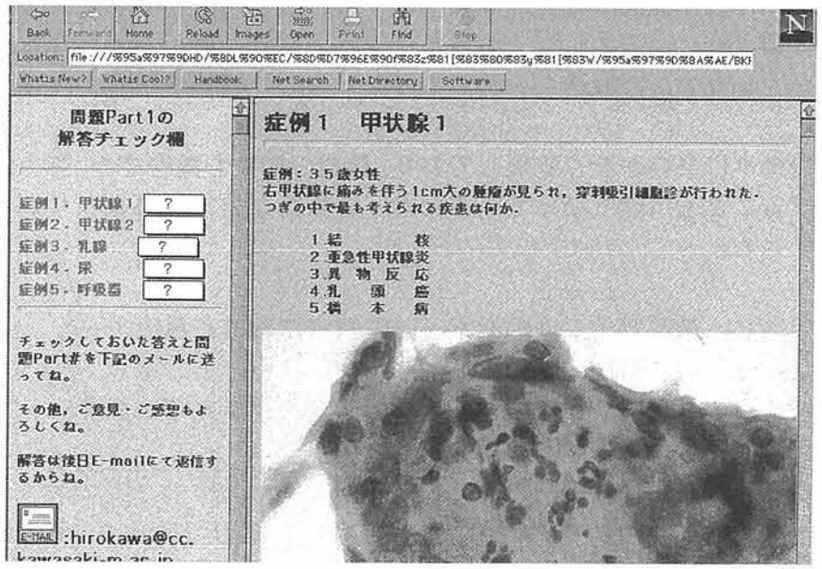
お知らせ

細胞診のホームページ開設

川崎医科大学附属病院
病理部　広川　満良

平成８年７月に細胞診のホームページを開設しました。このホームページには病理の紹介や細胞診がクイズ形式で載っています。病理の紹介の所では、施設の概略、スタッフ、日常業務内容、学会活動などを紹介しています。細胞診クイズは五者択一の問題になっており、答えをインターネットを用いた電子メール(e-mail)で送ってもらい、それに対して正解とコメントをe-mailで送り返す方式にしています。ホームページのアドレスは川崎学園のオープニング画面（http://www.kawasaki-m.ac.jp）から接続できるようにしてあります。ぜひ、ご覧下さい。





MTニュース

第45回
日本臨床衛生検査技師学会
特別賞

"病理肉眼標本――――
医学教育における利用法"

川崎医科大学附属病院
病理部　主任　三宅　康之

このたび2期生の三宅康之氏が第45回日本臨床検査技師学会特別賞を受賞されましたので、会員の皆様方にお知らせするとともに同氏のこれからのますますの御活躍、御発展をお祈り致します。

以下受賞内容文の概略を紹介させていただきます。

医学教育用あるいは博物館展示用の病理肉眼標本には種々のものがあり、もっとも一般的な標本は液体の中に臓器をおさめた液浸標本であるが、視覚的に観察するだけで直接手に持って観察することはできない

そこで、直接臓器に触れることができる唯一の標本してシリコンゴムを臓器の水分や脂肪分を取り除いた後に浸透させた標本を作製する方法を同氏らは考案された。

又、同氏の作製方法によると脳は一般臓器と比べて収縮が強いため脱水を－25℃のアセトンで行ない、シリコンの浸透も－25℃で行なうことで収縮を防ぐようにくふうされている。

こうした含浸標本は臭いがなく乾燥しており、臓器の内腔も観察でき、弾力性があるため手で折り曲げることも可能となっているため、印象的な教育材料となりえることが期待されるとしている。

投稿論文　三宅康之、鐵原恵子：肉眼標本―医学教育における利用法―
　　医学検査　44：911―916、1995

P.S1　なお同氏は細胞診検査研究班々長としても御活躍されています。
　　御関係のある方はよろしくお願い致します。

P.S2　わんこそば大会で優勝したのもこの人です。

―編集部より―